



Sense Island -感覚の島- 暗闇の美術島

Sense Island Sarushima Dark Museum

アートを通して体感する猿島とその自然

Sensing Sarushima and it's nature through the art work as a lens.



上空から見た猿島

人は昔から自然と共生してきた。そこから文明は生まれ、文化となり発展し続けています。

しかし、ときに人は人自身の進化の速度が遅いがゆえに、自分たちの環境を強制的に変化させ、その行為によって、ときに自然を滅ぼし、沢山の過ちを引き起こしてしまいました。

今の時代は「人間中心」を再定義する時だとも言われています。

Sense Island - 感覚の島- では、唯一無二の存在である自然島”猿島”だからこそ、知らずのうちに人工的に作ってしまった感覚を取り払い、テクノロジーや時間を取り払い、猿島やそこに有る自然の文脈を、そしてその文脈を感じるために自分自身と向き合うような作品や体験を置くことで、我々が失ってしまった”感覚”をもう一度取り戻す試みを行います。

SENSE ISLAND プロデューサー 齋藤 精一 株式会社ライゾマティクス代表取締役、京都精華大学デザイン学科非常勤講師



齋藤 精一

1975 年神奈川県生。建築デザインをコロンビア大学建築学科(MSAAD) で学び、2000 年から NY で活動。その後 ArnellGroup にてクリエイティブとして活動し、2003 年の越後妻有トリエンナーレではアーティストとして出品。2006 年にライゾマティクスを設立。建築で培ったロジカルな思考を基に、アート・コマーシャルの領域で立体・インタラクティブの作品を多数作り続けている。2013 年 D&ADigital Design 部門審査員、カンヌ国際広告賞 Branded Content and Entertainment 部門審査員(2014)。ミラノ国際博覧会日本館シアタークリエイティブディレクション(2015)、六本木アートナイト 2015 にてメディアアートディレクター。グッドデザイン賞審査員及び審査委員副委員長。ドバイ万博日本館クリエイティブアドバイザー(2020)。

- 1、猿島全体を夜間開放するのは初めての試み。
- 2、夜の猿島で開催する初めての総合的アートイベント。
- 3、夜の無人島を舞台に大人を中心に楽しめるアートイベント。
- 4、歴史的遺産価値のある離島での開催。
- 5、アクセスが良い離島での開催。横須賀の街ごと楽しめる。



三差路(猿島内)

開催概要 Information

- タイトル Sense Island -感覚の島- 暗闇の美術島 (英語表記: Sense Island Sarushima Dark Museum)
- 開催日時 内覧会 2019年11月2日 [土] *ご招待状をお持ちの方のみ
一般会期 2019年11月3日 [日]~12月1日 [日]
開場時間 17:00-21:00 (予定) *日没以降
- 会場 猿島公園 (神奈川県横須賀市猿島1番)
- 料金 3,500円前後を予定 (往復乗船料、夜間乗船料、入園料、観覧料含む) *詳細はウェブサイトにて順次お知らせします。
- URL <https://senseisland.com>
- 主催 横須賀都市魅力創造推進実行委員会
- 共催 順次発表予定
- 助成 平成31年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
神奈川県川崎競馬組合が主催する「川崎競馬」の利益配分を活用した神奈川県市町村自治基盤強化補助金対象事業
- 協賛、後援、協力 順次発表予定
- 連携イベント 順次発表予定



参加アーティストについて

キュレーターメッセージ 感覚としての気配

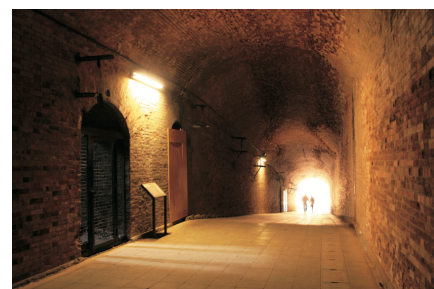
この島に残る砲台跡や弾薬庫跡を始めとするあらゆる人工物と、東京湾最大の自然島と言われるこの島の自然の融和が生み出した景観は見る人の心に強い印象を残します。

しかし、それにもましてこの島の独自性を感じるのとはそうした景観の中に立つこと、歩く中で感じるこの島に漂う気配を感じる瞬間です。

兵舎跡の前に立ちその場所で生活していた人々を想像しながら、木々の向こうに潜む鳥たちの視線を感じる。弥生時代の貝塚が残る洞穴を見ては彼らの食事の様子を思い浮かべ、かつてこの島にいた人も聞いたであろう波の音や木々が揺れる音を聴く。

日没から始まる SENSE ISLAND は、アートプロジェクトを通して私たちの視覚や感覚を制限しながら、この場所に漂う気配との出会いを作り出します。

そして、現代社会に生きる私たちが「恐らく忘れかけているであろう感覚や感情」を呼び覚まし、一人一人が持つ想像力を通じて自らの生活や個人のあり方を見つめ直す機会になればと考えています。



上：島内トンネル 下：高角砲台跡

参加アーティスト：ワイルドドッグス、佐野文彦、後藤映則、鈴木康広、齋藤精一 (ライゾマティクス・アーキテクチャー) 他 順次発表予定

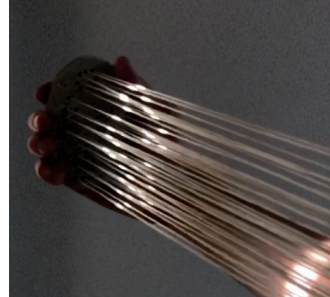
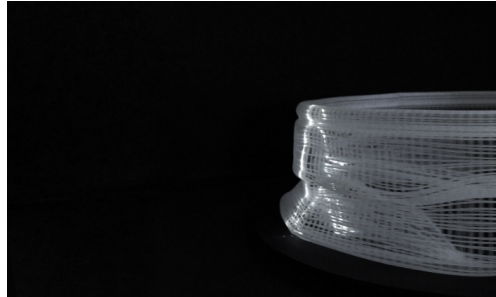
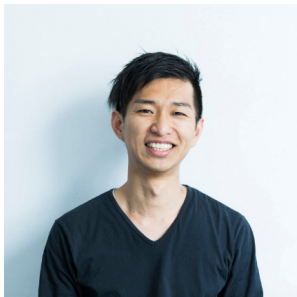
*作品画像はすべて参考画像

ワイルドドッグス WILD DOGS



領域を超えた様々なアーティストと協働し、場所に即したインスタレーションや新しい体験を創り出すクリエイティブユニット。これまでにヴィト・アコンチ、タウバ・アウエルバッハ、オノ・ヨーコなど数多くのアーティストとのコラボレーションを行い、ヴェネツィア建築ビエンナーレ(イタリア)、ニューミュージアム(ニューヨーク)、パレ・ド・トーキョー(パリ)など世界各地でプロジェクトを展開。 <http://wilddogsinternational.com/>

後藤映則 Akinori Goto



左: toki- WALK #01
右: Rediscovery of anima

1984 年岐阜県生。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科専任講師。代表作に 3D プリンターを使用した時間の彫刻「toki-」シリーズ。古くから存在する手法やメディアを捉え直し、現代のテクノロジーと掛け合わせることによって立ち現われる事象やフィジカルとデジタルの関係性に着目しながら作品を展開している。近年の主な展覧会に Ars Electronica Festival 2018(オーストリア)、SXSW Art Program 2017(アメリカ)、「THE ドラえもん」展など。

佐野 文彦 Fumihiko Sano



1981 年奈良県生。京都・中村外二工務店にて数寄屋大工として弟子入り。設計事務所などを経て 2011 年独立。現場で得た工法や素材、寸法感覚などを活かし、コンセプトから現代における日本の文化とは何かを掘り下げ制作している。文化庁文化交流使として 16 か国を歴訪し各地でプロジェクトを敢行(2016)。様々な地域で新しい文化の価値を作ることを目指し、建築、インテリア、プロダクトなど、国内外で領域横断的な活動を積極的に続けている。 <http://fumihikosano.jp/> 左: Hirabayashi 右: 35.681108, 139.804148

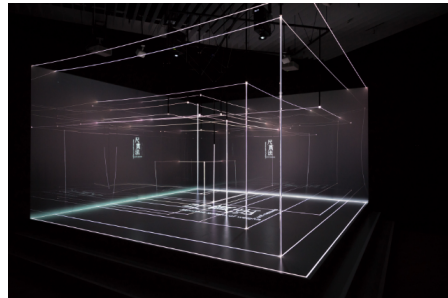
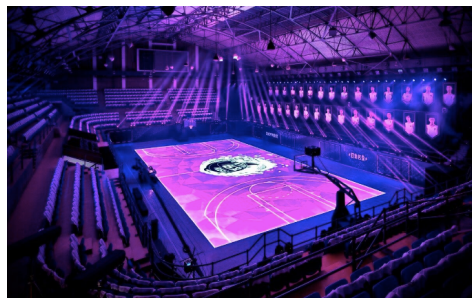
鈴木 康広 Yasuhiro Suzuki



左: 撮影: 中川正子
中: ファスナーの船『隅田川 森羅万象 墨に夢』/
「ふねと水辺のアートプロジェクト」 出展
右: 空気の人 Iceland

1979 年静岡県生。武蔵野美術大学准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。既にあるものや見慣れた現象に新鮮な切り口を与える作品によって、ものの見方や世界のとらえ方を問いかける活動を続けている。水戸美術館(2014)、箱根彫刻の森美術館(2017)で個展開催。瀬戸内国際芸術祭 2010 に登場した『ファスナーの船』が『隅田川 森羅万象 墨に夢/ふねと水辺のアートプロジェクト』で隅田川を運航し話題に。その他『空気の人』は、国内外の美術館やパブリックスペースで展開している。2014 毎日デザイン賞受賞。平成 29 年度文化庁文化交流使。

齋藤 精一 (Rhizomatiks Architecture)



ライゾマティクス設立以来テクノロジーや様々な制作で培ったノウハウを通して、人と空間・都市に、新たな関係性と体験を創出するチーム。Rhizomatiks Architecture を設置した3年間さまざまなアートイベントや展覧会、行政系の協議や街づくりなどに携わり、今までの場所や作品の概念を飛び越えた作品を発表している。

左: Nike RISE + House of Mamba- 中: 日田の山と川と光と音 右: Power of Scale

クリエイティブチームについて

猿島で開催する理由

猿島は東京湾に浮かぶ無人島です。

しかし、この島に一歩足を踏み入ると、弥生時代の生活がうかがえる洞穴、明治時代初期から築かれた砲台跡、これまでに島を訪れた人々が残したであろう痕跡を、島の至るところで目にすることになります。

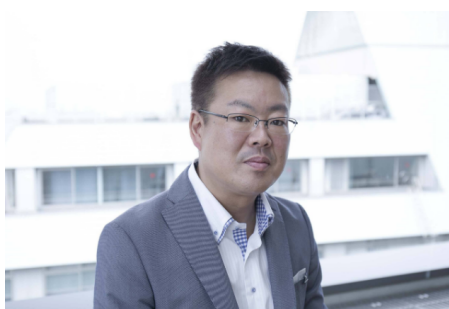
そして、それら人間が残した痕跡は時間の経過とともに自然と融和し、この島独自の風景を作り出しています。

今回初めて開催される Sense Island -感覚の島-では、猿島が持つ空間的な特徴や歴史、また島の近くで暮らす人々の営みなどから着想を得たアートプロジェクトを国内外のアーティストと共に展開します。そして、一連のアートプロジェクトの体験は、鑑賞者一人一人が現代の都市生活の中で忘れかけている様々な感覚をもう一度取り戻す機会になるはずです。



三差路(猿島内)

アドバイザー 中野 仁嗣 公益財団法人神奈川芸術文化財団学芸員／公芸術資源マネジメント研究所理事・研究員、女子美術大学・東海大学非常勤講師。



1968年神奈川県生。第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展(2015)日本館キュレーター。横浜トリエンナーレ2017 キュレーター。
主な企画に「アルマ・マラーとウィーン世紀末の芸術家たち」
「生誕100年ジョン・ケージ せめぎあう時間と空間」
塩田千春展「沈黙から」、小金沢健人展「あれとこれのあいただ」
「デザインの港。」浅葉克己展、八木良太展「サイエンス/フィクション」
塩田千春展「鍵のかかった部屋」「詩情の森」展語り語られる空間
さわひらき展「潜像の語り手」小金沢健人展「Naked Theatre -の劇場-」ほか多数



1984年東京都生。大学卒業後、NPO 法人 BEPPU PROJECT にて国際芸術祭の立上げや、公共空間や遊休施設を利用したアートプロジェクトの企画運営を担い、文化芸術による地域活性化ならびに観光振興に携わる。
2015年に「アートを触媒に見えないモノを可視化する」というコンセプトの元、NPO 法人インビジブルを設立し現職。
<https://invisible.tokyo/>



キュレーター 高橋 龍 音楽キュレーター・プロデューサー

キュレーター 原 瑠璃彦 日本学術振興会特別研究員



ニューヨークと東京を拠点に活動。パークリー音楽大学卒業後 Sony Music Entertainment 勤務。独立後レコード会社や美術館のクリエイティブ・コンサルタントを勤めながら、Arto Lindsay 等アーティスト・マネジメントも行う。17年より The BroadMuseum(LA) 音楽キュレーターを担当し、その他 David Byrne の展覧会(10)や、David Bowie の写真展(17)等を企画。

1988年生。専門は日本の庭園、能・狂言。野村萬斎+坂本龍一+高谷史郎による能楽コラボレーション「LIFE-WELL」(2013)でドラマトウルク、ムン・キョンウォン+YCAM「プロミス・パーカー未来のパターンへのイメージネーション」展(2015)のリサーチ・インスタレーション「PARK ATLAS」でディレクションを担当。 <http://rurihkohara.com/>

猿島について

猿島の伝説

明治時代からの砲台跡が史跡に指定され歴史遺産としても貴重な猿島は、一周歩いて40分程度で回れる小さな無人島です。
この無人島には日蓮上人の、こんな伝説が残っていました。

1253(建長5)年、安房の国から海を渡り鎌倉へ布教に行く途中、日蓮上人を乗せた船は突然の嵐に合い、船底に穴が開き沈没しそうになりました。

上人が静かに法華経を唱えると、船底の穴に鮑が吸い付き穴は塞がりましたが、嵐は静まらず、上人が一心に法華経を唱え続けると、一頭の白猿が現れて船を島へと導いてくれたことから、猿島と名付けられたと言われています。



三竹社観音から見た猿島

上陸ののち再び白猿が現れ陸側に渡るよう啓示を受けた上人は、再び船に乗って米が浜（横須賀市米が浜）に渡ります。お告げを受けた地元の豪族が、上人を背負い船から浜へ降ろすときに、さざえで足を切ってしまいました。それを見た上人が法華経を唱えると、豪族の傷は癒え、この浜のさざえには角がなくなったと言われています。

島を訪れた人は この伝説や史跡を知ること、今でも日蓮上人を偲ぶことができるのです。 ※諸説あります

猿島へのアクセス

京浜急行線「横須賀中央」下車徒歩(約 15 分)、またはタクシー(約 5 分)で三笠棧橋へ。フェリー乗船にて猿島へ。

「横須賀中央駅」

京浜急行線「品川」から、約 45 分、「横浜」から約 25 分。

※快速特急を利用した場合

「横須賀中央駅」から三笠棧橋までのアクセス



会期中イベント

会期中様々なイベントを開催いたします。詳細は後日お知らせいたします。

お問い合わせ

全般お問い合わせ

横須賀都市魅力創造発進実行委員会(横須賀市都市魅力創造発進課内)

TEL 046-822-9284(平日 9:00-17:00)

yokosuka8294@gmail.com

広報用画像などプレスお問い合わせ

株式会社いろいろ

担当：市川

press@iroiroiroiro.jp